

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2271100824		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	沼津ケアセンターそよ風		
所在地	沼津市中沢田391-1		
自己評価作成日	平成25年1月23日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成25年2月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

来客者及び利用者に対して、笑顔で元氣よく挨拶することを徹底しています。又、ご家族様に安心・信頼して頂ける様に連絡を怠らないようにしています。  
 入居者様の状態の変化に合わせて、主治医・ご家族と連携、協力しながら、ご本人様の希望に添えるような終末期ケアを行っています。  
 地域との関わりを大切に、回覧板にて事業所便りを回して頂いています。年1回のそよ風まつりの開催時には、大勢の地域の方々に参加を頂き、散歩時には気軽にお声を掛けて頂く等良好な関係を築いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

閑静な住宅街に立地し、静かな環境の中、ユニット内は落ち着いた雰囲気にもまれています。運営推進会議で頂く意見や要望を取り入れ、サービスの向上に活かしています。地域との繋がりを大事にし、「そよ風だより」を毎月回覧したり、毎日の散歩等で顔なじみになるなど、地域に溶け込む工夫をしています。また、感染症への対応にも重きを置き、出入口、居室やフロアの床の清潔に気を配っています。各ユニットフロアは、季節の花や入居者の写真・作品を飾り、入居者に合わせた良い環境作りを考え、ゆったりとした居ごち良い空間を作っています。職員同士の話し合いで決めたユニット目標を掲げ、自立に向けての支援の取り組みがなされています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の「自分らしさを保ちながら自由に喜びのある生活」を踏まえ、地域に密着した暮らしを実践しています。朝礼で理念を唱和し、意識するようにしている。	母体の理念を朝礼で唱和している。ユニット会議で、職員がその人に添う努力をするように話している。ユニット内で「ユニット目標」を半年ごと設定し、実践をしている。	グループの理念を大切にし、実践されているので、事業所独自の理念が加わると更に良いでしょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事、地域活動に積極的に参加している。又、毎月、回覧板にて手作り社内報「そよ風だより」を地域に回して頂いている。	地区の敬老会には職員が一緒に同行して参加している。年1回開催の「そよ風祭り」の案内を地域に回覧し、ボランティアや模擬出店への参加をしてもらっている。散歩時に挨拶をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、ご家族や地域の方々からの認知症予防の理解や支援の相談に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、関係者の方々の意見や要望は、フロア会議や全体会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。	2か月に1回開催し、事業所内の行事や出来事を報告している。参加者からの意見や要望を取り入れ、活かす工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会において、行政や他事業所との協力関係を築いている。	市の担当職員とは電話で相談をし、意見をもらっている。グループホーム連絡協議会にも参加し、相談をしている。保健所の職員の訪問も受け、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を年2回行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束やスピーチロックに対する認識があり、居室の無施錠等にも努力をしている。	事業所内で鍵をかけずに安全に過ごせる工夫に取り組まれる事に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、会議において周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、全体会議において周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に説明、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部では、フロア会議・全体会議、外部では、家族会・運営推進会議で反映している。月1回の間隔で、市の介護相談員が利用者様の話を聴いている。	運営推進会議等で、遠慮なく意見や要望が言える関係作りをしている。欠席者にも、毎月末には生活振りをお便りにし送付し伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・全体会議にて話をしている。	全体会議やフロア会議に、2時間程の時間を確保し、開催している。支社からの連絡事項の伝達が主流になっている。	会議の議案に、職員の運営に関する意見や提案を取り入れ、出された提案については、検討し進行状況や結果についての開示もされることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に努める様努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルに応じて研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで情報交換し、交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査において、趣味や生活歴・活動などを聴かせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談受付時・契約時・面会時などに、ご家族様の不安な事・要望を聴く等個別に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望により、必要なサービスを提供し、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごし、レクリエーションや家事に参加したり、昔の話を聴かせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「そよ風だより」などお便りで様子を知らせたり、一緒に行事に参加して頂いたり、面会等でふれあうことができる様、支援させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内に写真を飾る、電話したいとの要望のある時はそのように、絆が途切れないように支援している。	写真を飾ったり、電話をする等の支援をしていて、利用者は楽しみにしている。訪問理美容を利用しているが、行きつけの美容院に通う人もいて、家族に対応してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するように努めている。時には間を取り持つ様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞い、退去されてからの面会を行い、関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から話を伺う。困難な時は、ご家族様に伺う。生活歴などから把握に努めている。	日常の会話や、家族からの話で把握に努めている。本人の発言の頻度や家族の証言で整合性を確認している。本人の“～したい”という希望には、本人が安心・納得できるまで関わるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から、お話を伺う。又、足りない部分は担当ケアマネジャーより情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日報、連絡帳などを活用し、職員同士の情報交換を行い、利用者様の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にて、担当者会議を行い、介護計画に反映させている。各職員が小さなケアプランを作成しています。	ユニット会議は毎月開催し、前月の利用者の様子を「小さなケアプラン」に記載してケアプランに反映している。	職員の気づきを記載している「小さなプラン」の有効性をケアプラン、個別援助計画、モニタリングに更に一層反映できる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録はケアプランに沿った記入をし、ケアプランの番号を書き入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスや他ユニットとの交流など柔軟なサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の敬老会や文化祭への作品の出展を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医及び以前からのかかりつけ医のある方はどちらとも連携している。	入居時に希望を取り、かかりつけ医の継続が可能で、連携も図られている。通院は家族対応となっている。指定の協力医による往診も受けている。電話1本で往診対応をしてくれる他、色々な指導・指示を受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師による週1回の巡回があり、又気になる事があった時は、常時連絡・相談し、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じ、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、カンファレンスを行っているが、状態の変化に合わせ、カンファレンスを随時実施している。	入居時に、本人、家族より重度化や終末期に向けて意向の確認をしている。状態の変化に伴い、協力医の助言を得て、随時カンファレンスを行い、医療的行為等家族の意向を確認している。このような取り組みの中で3名の方の看とりを行ってきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、救命講習を受け、緊急対応のマニュアルの確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各訓練を定期的に行っている。	各訓練を定期的に行っている。地域の協力を運営推進会議の中で依頼している。今後も地域での避難先の受け入れ等を検討をしていく事になっている。備蓄品は2日～3日分が用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重した言葉掛けや対応を心掛けている。敬語と親しみやすい言葉を状況に応じて使い分けている。	敬語と親しみやすい言葉を入居者の状況に応じて使い分ける事を心がけている。気付かない内に慣れ合いになっている事もある為、ユニットの移動を試み、一人ひとりに気付いてもらうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望の出しやすい雰囲気作り、その方に合わせた分かりやすい言葉や表現を用いた説明を行い、できる限り自ら決定を行える様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日程はあるが、利用者様のその日の要望や気分に合わせて、希望に添える様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方は、鏡の前で整容されたり、洋服を選ばれている。又、二ヶ月に一度、美容師にてカットをする機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の負担とならない範囲で、準備や片付け等一緒に行っている。	調理、配膳、下膳、味見等入居者の負担とならない範囲で一緒に行い、調理方法を入居者に教わる等楽しい時間になっている。好みに関しては、本人、家族から聞き取りを行っている。時には、出前を取ったり、外食レクリエーションをしたりと食事に変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立をベースに、ペーセント食から常食、トロミの有無まで対応している。水分量は毎日一人ひとり確認させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔ケアを実践している。できない方は介助させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ介助を重点にし、「トイレにて排泄をしたい」自立に向けた支援をしている。	トイレでの排泄を大事にし、尿意が無い入居者には、排泄チェック表による排泄パターンを基にトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援ができています。排泄時は声掛けをしながらトイレの外で待つ等羞恥心に対する配慮も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、利用者様に応じた方法・対応し、乳製品・水分量・腹部マッサージ等で対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めず、希望・体調・タイミングに合わせて入浴して頂いている。	毎日の入浴を基本としている。一人ひとりの希望の確認や体調をみて無理のない入浴の対応ができています。入居者とスタッフ1対1の対応で入浴している。入浴剤等を利用して、入浴を楽しむ雰囲気作りの工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休息したい時は、居室にて休んで頂いている。夜間就寝されない時は、眠れるまでリビングにて過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報をファイルしている。薬の本を購入したり、薬剤師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを参考にし、好きな事を選ぶ方には選んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として外出を計画し、その際にご家族様にも連絡を取り、参加する機会を設けさせて頂いている。	毎日、午前10時から11時の間に散歩に出かけている。なるべく外に出る事で、外気にあたり四季を感じ、近所の方とも交流が図れるようにしている。行事の中に外出を計画し、家族等の協力も得ている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	機会は少ないが、買い物レクリエーション時はお小遣いを持って行き、できる限り、好きな物を買って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が、家に電話したいと訴えられた時は、電話をかけれる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事の飾りを利用者様に作って頂いて飾り付けたり、季節感を出せるように努めている。	フロアは窓からの穏やかな光で明るく、季節の花や行事の飾りで季節感が表されている。入居者の作品や写真等も飾られ、落ち着いて過ごせる空間になっている。居ごちが良く、入居者は日中ほとんど、フロア内で過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビをご覧になって頂くように配置し、自由に行き来して頂く様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用されていた家具を持参して頂いている。ご家族の写真を飾られている。	馴染みの物として家族写真や入居者の作品等が飾られ、仏壇を居室に置いている人も居る。入居者が希望する物を置くように配慮がなされ、意向を確認しながら居ごち良い居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレにプレートを置いたり、カレンダーや時計を置き、場所・季節・時間などが分かる様支援している。		